

県北部で葉いもち発生ほ場が多い

～発生状況を確認し、傾穂期にも追加防除してください～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

- 1) 8月1半旬の巡回調査(80地点)における葉いもちの発病株率は3.6%(平成4.4%)、同地点率は18.8%(平成21.1%)でいずれも平成並だった。穂いもちの主な伝染源となる上位2葉の葉いもちの発病株率は1.1%(平成1.0%)、同地点率は8.8%(平成10.4%)でいずれも平成並だった(表-1)。
- 2) 地域別では、県北部の発病株率が6.3%(平成4.0%)でやや高く、同地点率は43.5%(平成23.4%)で高かった。上位2葉の発病株率は3.5%(平成1.1%)、同地点率は21.7%(平成11.5%)でいずれも高く、過去10年の中で最も高かった(図-1、2、3)。
- 3) 7月31日に仙台管区気象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高い、降水量は平成並か多いと予報されているため、穂への感染量が増えることが予想される。

以上のことから、県北部を中心に葉いもちが発生しているほ場では、今後、穂いもちの発生が懸念されるので、次の防除対策を行う。

2. 防除対策

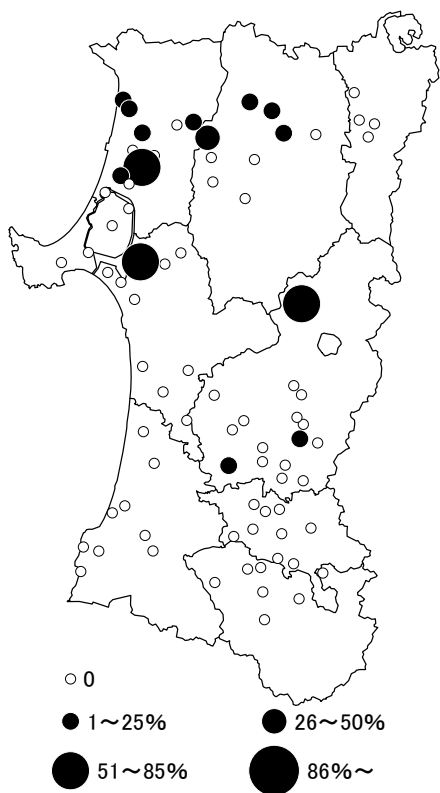
- 1) ほ場によって葉いもちの発病程度は大きく異なるので、水田内に入って葉いもちの発生状況をよく確認する。
- 2) 出穂直前にトライフロアブル又はビーム剤を散布した場合は、穂揃期にトライフロアブル又はラブサイド剤の茎葉散布を行う。葉いもちが多発しているほ場では、上記に加え傾穂期にもラブサイド剤による追加防除を行う。
- 3) 本田での防除薬剤の使用回数は、トライ剤は2回、ラブサイド剤及びビーム剤はそれぞれ3回以内となっているので注意する。
- 4) 向こう一週間は天候不順が予想されることから、雨前や雨間散布を心がけ、防除時期を逸しないように注意する。

3. 資料

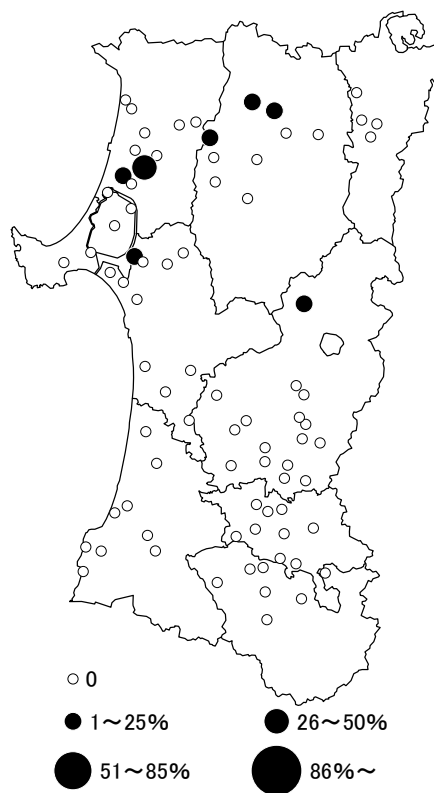
表-1 巡回調査における葉いもちの発生状況(8月1半旬)

		葉いもち	葉いもち	上位葉葉いもち	上位葉葉いもち
		発病株率(%)	発病地点率(%)	発病株率(%)	発病地点率(%)
発生 状況	県北部	6.3 (4.0)	43.5 (23.4)	3.5 (1.1)	21.7 (11.5)
	県中央部	3.4 (2.3)	8.0 (10.3)	0.2 (0.6)	4.0 (6.1)
	県南部	2.4 (6.3)	9.4 (27.2)	0.6 (1.1)	3.1 (11.1)
	全県	3.6 (4.4)	18.8 (21.1)	1.1 (1.0)	8.8 (10.4)
概 評	県北部	やや多	多	多	多
	県中央部	やや多	並	やや少	並
	県南部	やや少	やや少	並	少
	全県	並	並	並	並

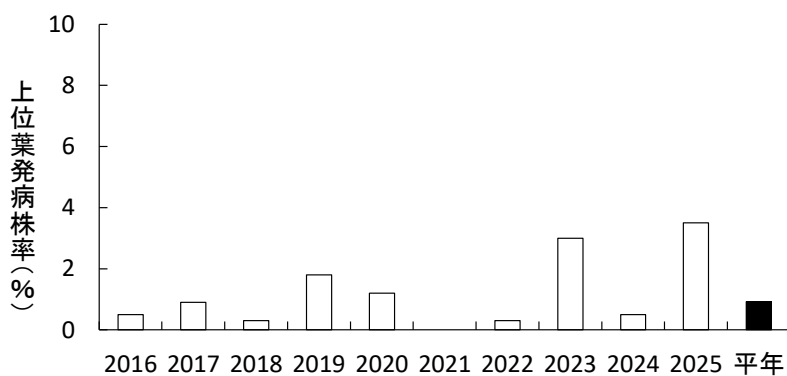
()は平成値



図－1 葉いもち発病株率(8月1半旬)



図－2 上位葉(上位2葉)葉いもち発病株率(8月1半旬)



図－3 県北部の葉いもち上位葉発病株率の年次推移 (年)
(穂揃期)

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>